

## 令和3年度を振り返って

令和3年度は新病院長と共に院内の様々な課題に取り組みました。意思決定の速さと、職員が一丸となって対策に取り組む統一感は当院の特徴でもあります。看護科では今年度、病院機能評価受審の準備を通して看護の質向上を図ること、デジタル化に対応できる職員を育成すること、看護管理者教育の3点に力を入れました。



病院機能評価受審は、第三者評価を通して、提供している看護サービスの質改善が起きたり、多職種との連携が強化される等の利点があります。また第三者評価は、令和4年度の診療報酬改定において、回復期リハビリテーション病棟入院料1の算定要件に入りました。今回の受審では、主に前回受審からの新たな取り組みについて評価されます。看護科では看護教育委員会、看護の質向上委員会、情報委員会を組織化し、それぞれ看護教育に関する課題や看護の質向上に関する課題、看護記録や情報発信等について、躍動的に課題解決をしています。前回受審から多くの改善を評価されるように準備をしました。「進歩し続けられない限りは、後退していることになるのです。」ナイチンゲールの言葉は今でも私達の背中を押してくれます。

デジタル化に対応できる職員の育成については、Zoom等オンラインでの会議が多くなりました。どの職員もオンライン会議に参加したり自身がホストになって会議を開催できるように研修をしています。また、職員がeラーニングでの自己研鑽や、オリジナル動画の講義作成ができるようになりました。オンラインでの面会もマニュアルを作り実施しています。遠くはオーストラリアからの面会があるため、うれしそうに面会しておられる患者さんやご家族を見て職員も安堵する場面があります。

看護管理者教育については、看護協会の管理者研修への参加や、管理規定の整備やマネジメントラダーの構築、キャリアラダーのシステム評価などを行いました。中でも自己評価ツールのチャレンジへの参加は、厳しい自己評価がフィードバックされるため、落ち込むことも多いですが、組織の成長のために前向きに捉えるようにしています。

私事ですが今年度定年退職を迎えました。病院が開設して15年、周囲の皆様にご支援いただき、どのような課題があっても前向きにPDCAサイクルを回していくことができる組織に、そして新しい知識を取り入れ、成長していくことができる組織になっていると思います。そのような組織で働くことができ、光栄に思います。

皆様のこれからのますますのご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。本当にありがとうございました。

広島市立リハビリテーション病院  
総看護師長 村中 くるみ